

こんや
お江戸新宿「紺屋めぐり」— 紺屋とは染物屋のこと。

江戸時代に藍染めが染め物の大半を占めていたので、染物職人を総称して「紺屋」と呼ぶようになりました。反物が着物になるまでには様々な工程があります。江戸小紋や江戸更紗、東京手描友禅といった染色の〈技法〉や、江戸刺繍や紋章上絵などの〈技術〉、染色補正や湯のし、洗張といった〈仕上げ〉の工程まで、高度な分業制が発展してきました。当イベントではこうした業種を幅広く「紺屋」と捉え、新宿区は神田川・妙正寺川の流域を中心に落合・高田馬場・早稲田

にある多種多様な工房にて期間中、体験・見学することができます。通常ではなかなか体験できない専門性の高いものもありますのでお楽しみに。秋の散策がてら、ぜひ着物でお越しくださいませ。



新宿区の地場産業である染色業

東京新宿には江戸時代からの伝統を受け継ぐ、江戸小紋・江戸更紗・紅型・東京手描友禅・江戸刺繍・糊画・紋章上絵・染色補正・洗張・湯のし等の工房が現存し、着物業界では「染のまち」として知られております。

染色補正

シミ抜きや一部染め直しの技術。染色工程の仕上げとして染めむらや汚れを修正、着用後の手入れも担う。

引染

生地を張り、刷毛で素早く地色を染める技法。模様部分に防染糊を置き、豆汁・布海苔で地入れして行う。

更紗

丸刷毛を用いた多色刷りの技法。華やかな図案が特徴で、簡素な柄でも20~30枚の型紙を使用する。

刺繍

直線的な「刺」と、曲線的な「繡」を組み合わせて表現。友禅模様や無地の着物・帯を立体的に彩る。

浸染

染色の原点となる技法。染料や助剤を調合し、白生地を浸して着色する。色の再現には技術と経験を要する。

洗張

着物を解いて反物にして洗い、生地を蘇らせる技術。布海苔張りなどの加工を施し、仕立て直しに備える。

模様(友禅)

友禅染の工程の一部。下絵や色挿しなど。東京手描友禅では、図案から仕上げまで模様師が一貫して担う。

糊画

友禅染の一工程。青花液で描いた下絵の線を、糸目糊でなぞる。色のにじみを防ぎ、独特の味わいを与える。

小紋

型紙を用いて微細な柄を染め抜く技法。東京染小紋は、江戸時代に諸大名が着用した袴の染めに由来する。

モダン紅型

琉球紅型の技法を用いて型紙に糊を置き、顔料を呉汁で落し、摺り込刷毛を用いて独特な色合いに染め上げる。

紋章上絵 手描き

抜いた紋型に、墨や地色の染料で紋を描く。分廻し(竹製のコンパス)や極細の筆を使った精緻な作業。

湯のし

白生地や染め上げた反物のしわを伸ばす作業。回転する布に蒸気をあて、指先で幅を整え美しく仕上げる。